



学校だより

深谷

令和8年8月31日

9月号

横浜市立深谷小学校

<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/fukaya>

「人のため」が「自分のため」

校長 杉田 仁

このたびの令和8年熊本地震ならびに令和8年8月千葉豪雨により被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。また、被災地の一日も早い復旧・復興と、安全で穏やかな日常が戻りますことを心から願っております。

近年、地震や豪雨などの自然災害がたびたび発生しています。そのたびに報道されるのは、困っている人に手を差し伸べたり、地域の人々が力を合わせたりする姿です。こうした助け合いの様子を見るたびに、人と人とのつながりの大切さを改めて感じます。

この夏休み、久しぶりにお会いした先輩から「利他行（りたぎょう）」という言葉を知りました。利他行とは、「他の人のためになる行い」のことです。困っている人に声をかけること、友達を励ますこと、みんなが気持ちよく過ごせるように行動することなど、私達の身近なところにある思いやりの実践を指します。

さて、学校教育では近年、「自己肯定感」の大切さが言われています。自己肯定感とは、「自分には価値がある」「自分は大切な存在である」と感じる気持ちです。しかし、その気持ちは単に褒められたり評価されたりするだけで育つものではありません。むしろ、「自分が誰かの役に立った」という実感の中で育まれるものだと感じています。例えば、困っている友達に声をかけて「ありがとう」と言われたとき、委員会や係活動で責任を果たして感謝されたとき、下級生に優しく接して笑顔を返してもらえたとき、子ども達は大きな喜びを感じます。「自分の行動が人の役に立った」「自分は必要とされている」という経験は、自分への信頼につながります。そして、その積み重ねが自己肯定感を高めていくのです。

自己肯定感というと、「自分はすごい」「人より優れている」と考えることだと思われがちです。しかし本来の自己肯定感とは、得意なことも苦手なことも含めて、「今の自分で大丈夫」と思えることです。その基盤となるのは、人との温かなつながりや信頼関係です。誰かに支えられ、自分も誰かを支える。そのような経験を通して、子ども達は安心感と自信を育んでいきます。利他行には、その土台を育てる力があります。人に親切にすると相手が笑顔になり、その笑顔は自分の喜びにもなります。人のために行ったことが、結果として自分の心を豊かにし、自分自身を成長させてくれるのです。これは「情けは人の為ならず」ということわざの本来の意味にも通じます。

学校では、スポーツフェスティバルをはじめ、多くの仲間と協力する機会があります。「人のため」が「自分のため」になる。そんな経験を重ねながら、子ども達一人ひとりが自分のよさや価値を実感し、自信をもって成長していくことを願っています。

私達教職員も、子どものよい結果だけでなく、人のために行動しようとする気持ちや努力を大切に見取り、励ましてまいります。保護者や地域の皆様におかれましても、子ども達の小さな親切や頑張りを見つけた際には、ぜひ温かな言葉を掛けていただければ幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。